

クラス	510	担当教員	谷 地 宣 亮
	テーマ	地域金融（中小企業金融）について考える	
	著書・論文	【論 文】「信用金庫・信用組合の存在意義に関する一考察—金融制度調査会および金融審議会の報告書を中心に—」『日本福祉大学経済論集』第40号、2010年3月。	
	研究課題等	【研究課題】地域金融	
ゼミナール 概 要			
キーワード：中小企業、地域経済、地域金融機関、地域密着型金融（リレーションシップバンキング）			
【内容・目的】 地域経済は元気がない。地域経済が元気でないということは、地域経済の主たる担い手である地域の中小企業が元気でないということであり、それは結局、地域の雇用に悪影響を及ぼしているということである。 第一次産業を除いた民間企業のうち中小企業は99.7%を占めている。また、全産業の従業者のうち中小企業の従業者は69.4%である。これらの数字から、国民の大部分が中小企業で働いていることがわかるだろう。日本経済の課題のひとつは、どのようにして中小企業を元気にし、地域の雇用を改善し、それを地域経済の活性化につなげていくかである。 中小企業は必要な資金の大部分を銀行（信用金庫や信用組合を含む）からの借入によって調達している。銀行から資金を調達することができないと企業の経営は成り立たない。銀行からたくさんお金を借り入れている企業、つまり中小企業の経営者や財務を担当する人は、幅広く金融の仕組みについての知識をもたなければならない。 銀行は地元の中小企業等にお金を貸すが、貸したお金が返済されないことには収益が得られない。したがって、当然、貸出にあたっては、相手企業に返済能力があるかどうかを厳しく審査する。この審査にかかわって、銀行に勤める人は、企業の財務諸表を分析する力だけではなく、企業の将来性や技術力を的確に評価する力（目利き力）が求められている。 これからの時代は、地域金融機関に就職するとしても、（中小）企業や地域経済のことがわかっていなければならない。また、（中小）企業に就職するとしても、金融のことがわかっていなければならない。ゼミでは、地域金融機関あるいは（中小）企業に就職して、そこで自分の力を発揮したいと考えている人たちと一緒に、「中小企業の再生」、「地域経済の活性化」、そしてそれらのためにはなくてはならない存在である「地域金融（＝中小企業金融）」について考えたい。			
【方法・計画】 ○2年次 （1）DVD の鑑賞（映画「素晴らしき哉、人生！」を観て、地域金融機関のあるべき姿について考える。） （2）テキストの輪読（荒和雄『小説で読む銀行取引』によって、簡単な財務分析について学んだり、中小企業と銀行との関係、銀行（員）のあるべき姿などについて考えたりする。） （3）地域金融機関のディスクロージャー誌の分析（地域貢献のあり方について考える。） （4）理想の金融機関についての検討（自分たちが理想とする地域金融機関とはどのようなものであるのかについて考える。） ○3年次 2年次での学習を発展させる。ゼミ生と相談しながら決めるが、たとえば、各自が興味をもつ金融機関あるいは企業を選び、それらが地域経済においてどのような活動をしているのかなどについて調べてもらおうと思っている。 ○4年次 3年次での取組みを卒業論文としてまとめてもらう。			
【履修上の注意】 次の約束を守ることができる人だけ、ゼミの希望票（エントリーシート）を提出してください。 （1）ゼミの行事に積極的に参加すること。 （2）無断で欠席しないこと。 （3）無断で遅刻しないこと。 （4）発表する日に欠席しないこと。 （5）提出物の期限を守ること。			
使用テキスト		担当教員からのメッセージ	
荒和雄『小説で読む銀行取引』法学書院、2005 年。		ゼミ希望者は必ず研究室を訪問してください。 【エントリーシート記入上の注意】 ①希望理由、②自己アピール、をしっかりと書くこと。	